



諏訪湖通信89号

令和7年11月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



第2回諏訪湖天竜龍神まつりを開催しました

諏訪湖天竜龍神まつりは、「美しい諏訪湖を次世代へつなぐ」という想いのもと、地域の自然・文化人が循環する新たな価値創造の場として、令和7年10月11日(土)に岡谷福祉センター(諏訪湖ハイツ)にて開催しました。メイン会場では諏訪湖神事&開会式から始まり、環境についての特別講演、出演者による太鼓(諏訪神太鼓、遊beat)、演劇(もののふ隊)、歌や音楽、抽選会、こども仮装大会、じゃんけん大会、世界チャンピオンによるバルーンショー、ゴミ拾い、マルシェ&キッチンカー50店舗以上など盛りだくさんの催しが開催されました。

本まつりは、単なるイベントではなく、諏訪湖の浄化や循環再生への取り組みを広げる”きっかけの場”でもあります。企業・団体・市民が垣根を越えて協力し合うことで、「環境×文化×経済」の調和的な地域社会のモデルづくりを目指します。



諏訪湖へ祈りと感謝を捧げる



下諏訪社中学校による
絆太鼓の演奏



八幡神社宮坂宮司×環境省
元事務次官中井氏対談

第6回諏訪湖まるまるゴミ調査

11月1日(土)に第6回諏訪湖まるまるゴミ調査を行いました。前日はまとまった雨だったため、開催が心配されましたが、当日は好天に恵まれ無事開催することができました。参加者253名が諏訪湖周辺の4会場に別れ(1会場は中止)、飲料ペットボトル、ビニール破片、マスク等の18種類に分類し、その個数を調査しました。ごみ回収量の内訳としては、可燃ごみが約268kg、不燃ごみが約70kgとなりました。個数は全部で5210個、そのうちプラスチック製品由来のごみは4591個で、小さなビニール破片、プラスチック破片が半数以上を占めました。

ふりかえりの中では、「こうした機会がないと道端に落ちているゴミをなんとも思わなくなってしまう」、「目を凝らすと知っている以上に小さなプラスチック破片が落ちていることに気付いた。」、「ポイ捨てされたものが目立つ。」といった環境意識を高める新たな気づきや日頃のマナーを見直す声が挙がりました。本活動が単なる清掃にとどまらず、地域の環境課題を再認識し、行動に繋がるように今後も継続していくことが重要だと感じました。



沖野会長による挨拶



拾ったゴミを集計

諏訪湖環境研究センター施設公開が行われました

令和7年10月5日(日)に諏訪湖環境研究センターでは「諏訪湖の日」協賛イベントとして施設公開を行いました。水質やごみを調査する体験ブース、プランクトン観察、諏訪湖調査体験、研究発表会、試験研究室見学ツアーと盛りだくさんの内容で、諏訪地域を中心に111名の皆さんに会場いただきました。

○諏訪湖調査体験

センター所有の調査船「かんけん1号」に乗船し、諏訪湖の湖心で採水や透明度の測定、プランクトン採取をしていただきました。遊覧船とは違い、湖面までの距離が近く諏訪湖を身近に感じることができ、参加された皆さんから大変好評をいただきました。(参加:6組13名)



調査船出航



透明度測定

○研究発表会

はじめに、諏訪湖創生ビジョン推進会議・沖野外輝夫会長から「諏訪湖環境研究センターに期待すること」と題して、沖野会長がこれまで諏訪湖の環境改善に向け、取り組まれてきた内容を交えてお話いただきました。続いて、センター研究員2名から研究成果の発表を行い、最後に、下諏訪南小学校クラブ活動「水辺生物観察クラブ」参加児童の皆さんによる発表、岡谷工業高校環境化学科3年生による課題研究の発表をしていただきました。

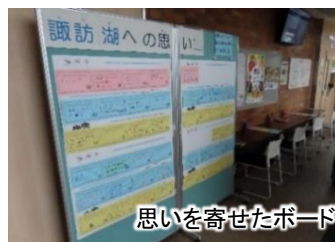


(沖野会長による講演)



(下諏訪南小の皆さんの発表)

また、受付横には諏訪湖についての思いを書いていたボードを設置し、過去:諏訪湖での思い出やエピソード、現在:今、諏訪湖で気になっていることや楽しんでいること、未来:これから諏訪湖に期待することなどを、来場者の皆さまに自由に書いていただきました。「60年くらい前にスケートをして楽しんだ」「冬の諏訪湖が一番きれい」「メガネサナエみつきたい」といった心に残る体験や期待に満ちた思いを寄せていただきました。



思いを寄せたボード

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901